

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	山口芸術短期大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ヤマグチゲイジュツタンキダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F235310110184
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	山口県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立短期大学
	科目名	インターンシップⅠ
	学部・研究科等名	芸術表現学科
	担当教職員名・役職	キャリア支援センター長 赤瀬洋司(特命教授)
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	17
	受入企業等数	15
	受入企業等名	山陽小野田市立中図書館、山陽小野田市立厚狭図書館、防府市、周南市、光市、レノファ山口、フォーラム、KRYサービスステーション、東横イン新山口駅、おのだサンパーク、長門市立図書館、やの舞台美術、米本工業、阿知須まち開発、大村印刷
	インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	派遣先ごとに取り組む内容が違う。今年度の場合は感染防止のため1社がオンライン実施(企業説明)となった。残り14社は、実際の就業体験、または与えられた課題の解決をおこなった。(例)お客様に分かりやすい、目立つ宣伝物を作るにはどうすればよいか?
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部1年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	短期大学1年生のキャリア教育の選択科目として実施している。年間30回を授業回数としているが、そのうち23回程度が社会人基礎力、マナー等の授業、インターンシップ実習を授業7回程度相当としている。

要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
		4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	インターンシップの内容をpptにまとめて参加者全員の前でプレゼンをおこなっている。体験レポート（A4一枚）を提出し、推進協議会が企業と打ち合わせの上、紹介したい内容を取捨選択し冊子にして配布している。
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	授業内でそれぞれの課題や進捗状況の報告を個別に求めている。	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	働くことの意味、インターンシップの目的、企業研究、社会人基礎力、社会人マナーなどインターンシップ実習までの授業で計10回程度講義している。	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	実習後は以下の項目をおこなっている。①お礼状発送 ②実習日誌提出 ③体験レポート提出 ④実習内容の報告資料作成 ⑤プレゼン	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	派遣先から返送される評価票をもとに参加学生に課題をフィードバックしている。	
要素	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		4.その他

④	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	派遣先企業による評価票（7項目4段階評価）
	4-3.上記回答内容に関する詳細	意識と行動の変容は、実習後の体験レポートとプレゼンに今回の実習で学んだこととして言葉で表れてくる。この意味で参加者全員の前でのプレゼン（報告）は重要である。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
		2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	連続の場合もあれば、土日ごとの計5日もある。
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	年間30コマの授業としているので、実習5日以外は講義をおこなっている。
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
5-3.上記回答内容に関する詳細	事前学習 15回 実習5日 事後学習、プレゼン8日	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
		5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	7.その他
6-3.上記回答内容に関する詳細	山口県インターンシップ推進協議会を窓口として、県全体で地元就職を推進する取り組みの一環で派遣先決定、体験レポートとりまとめを行っている。	
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.yamaguchi-jca.ac.jp/info/pdf/syllabus_geitan2021.pdf
問い合わせ先	大学等名	山口芸術短期大学
	担当部署名	キャリア支援センター
	担当者役職名	キャリア支援センター長（特命教授）
	担当者氏名	赤瀬洋司
	電話番号	083-972-2880
	メールアドレス	hakase@yamaguchi-jca.ac.jp